

# 秘密保護法案—戦前の軍機保護法に酷似— —スパイぬれぎぬで一般市民を逮捕・投獄?!—

安倍政権は『戦争ができる国』をめざして、集団的自衛権の解釈改憲の拡大をはかる一方で、アメリカの強い圧力を受けて、「国家安全保障会議（日本版NSC）」を設置するとともに、この秋の臨時国会では公務員（国会議員も？）への罰則を強化する「秘密保全法案」の提出を目指しています。

これまで「機密保護法」などの名称で何度も成立が目論まれましたが、その度に強い反対にあって成立が阻止されてきました。今回の法案についても、国民のパブリック・コメントでは8割が反対の意見だったといえます。国民の「知る権利」に大きな影響を及ぼす「秘密保全法」にはどんな問題点があるのか、メディア規制の問題を中心に論じていただきます。

◇安倍政権とメディア規制 講師 砂川浩慶氏（メディア総研所長・立教大学准教授）

◇現場からの報告 「秘密保全法」が成立するとテレビの報道現場はどうなるのか。ドキュメンタリー・スタジオ番組のケースで考えます。

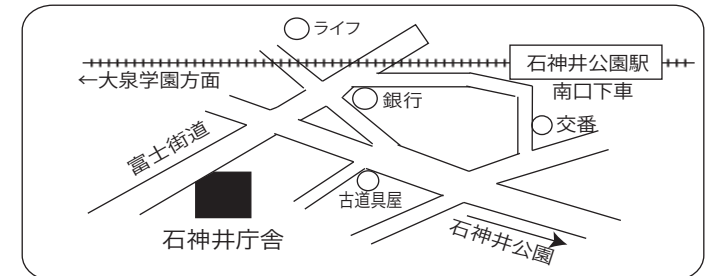
講師 加藤久晴氏（ジャーナリスト、元東海大学教授）

・映像上映 「ロン・ヤスの機密法約束アニメ」「武器無き敵」（戦前の機密法宣伝映画）

11月9日（土）午後2時～4時半

練馬石神井庁舎 5階会議室 参加費 500円・学生無料

連絡先：森田彦一（3951）4276



（裏面に新聞記事）